

Kumamoto University Library Bulletin, No.23, June. 1999

● 図書館サービスの向上を目指して

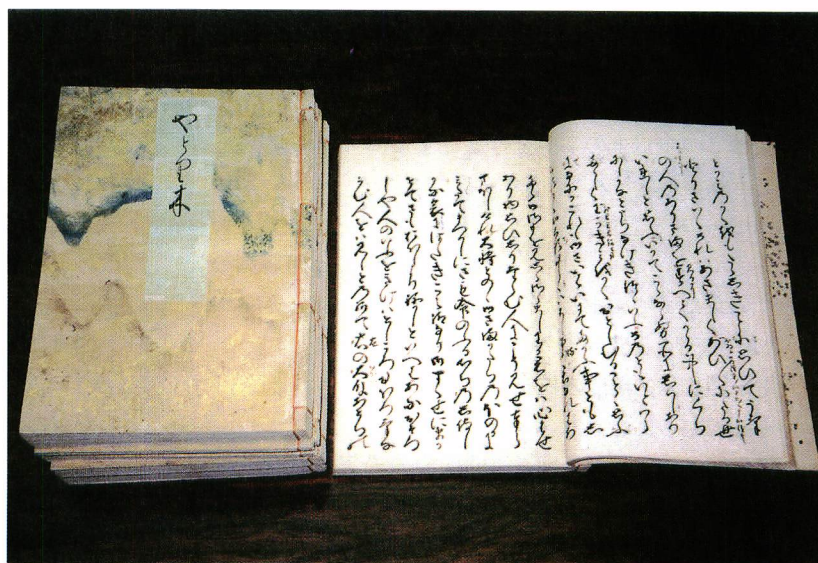
● 漱石漢詩注釈拾遺

特別企画：大学改革と図書館(2)

● 学生のための図書館と研究室の連携強化を

永青文庫蔵雑記類より(四)

● 藩士失踪



永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託
県・市指定文化財「源氏物語」より

図書館サービスの向上を目指して

山下谷 治

はじめに

平成11年1月1日付けで附属図書館事務部長として着任して4か月が過ぎ、本学図書館の事情が分かりかけてきたところです。今後、皆様のご協力を得て熊本大学附属図書館における利用者へのサービス向上に向け、努力していきたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

このところの大学図書館には電子図書館的機能を充実・強化させることや大学改革への対応などが求められています。当館におきましても、分館の事務を大幅に中央館に一元化したり、電子図書館化にも積極的に取り組んでいるところです。

さて、ここでは先の附属図書館運営委員会で承認されました平成11年度の事業計画から、今年度図書館で推し進めようとしているいくつかの事業を紹介し、皆様のご理解とご協力をいただきたいと存じます。

1. シラバス掲載図書 of 整備

今年度から、シラバスに掲載されている各授業の参考図書を図書館に備え付けることにしました。すでにほとんどの図書を中央館、医学部分館、薬学部分館及び医療技術短期大学部図書室に整備しましたのでご利用ください。

2. 新入生を対象としたガイダンスの実施

新しい事業として、図書館を活用していただくため、新入生を対象としたガイダンスを実施することにしました。内容はパソコンの操作や情報検索の実習、館内の案内などです。

今後は2年生以上の学生を対象とするガイダンスについても検討します。

3. 地域への公開促進

中央館では、これまでも一般市民の皆様に公開し利用していただいていたのですが、今年度からこれをさらに拡大し、図書の貸出サービスも実施することにしました。

4. 電子図書館的機能の拡充

① 遡及入力 of 促進

大学図書館には電子図書館的機能の充実・強化が求められており、当館でもこれに取り組んでいるところです。その基本ともいえるのは全蔵書がコンピュータで検索できる状態にすることです。

熊本大学には現在約121万冊の蔵書がありますが、

このうち目録情報が電子化され端末から検索できるのは約54万冊です。平成7年度から未入力分の遡及入力に取り組み、平成10年度までに約22万6千冊を入力しました。製本雑誌など入力の必要のないものを除き、あと約31万3千冊の入力が必要です。

当館では効率的な入力方式を考案したことにより、当初の計画を大幅に短縮して、平成12年度までに、ほぼすべての入力を完了できる見通しとなりました。

② 電子的資料 of 充実

電子化されたデータベースやオンラインジャーナルをさらに多く導入し、学内LANにより提供する計画です。

また、本学の学位論文や紀要などの電子化と公開を促進します。

③ 利用者用パソコン of 整備

蔵書を検索したりインターネットにアクセスできるパソコンの需要が多いため、できるだけたくさん整備する計画です。

5. 増築・改修計画への取り組み

学生数や蔵書数によって算出する大学図書館の基準面積がありますが、本学の中央館の面積はその半分もありません。建築されてから25年以上経過していることもあり、利用環境は非常に悪い状態です。学習、研究、保存など大学図書館の基本的な機能を回復、増強させるとともに、これからの大学図書館に求められている電子図書館的機能を充実させたり、地域社会への開放を促進するためにも、増築・改修が必要となっています。早期の実現に向け取り組んでいきます。

おわりに

平成11年度は以上のほか、古くなった施設や設備を改修、更新して閲覧環境を改善したり留学生を対象とするサービスの拡充なども計画しています。

図書館ではこれらの事業に取り組んでいきますが、実現には学内の皆様のご理解とご協力を必要とするものが少なくありません。

利用者にとってよりよい図書館とするため、図書館長の指導のもと図書館運営委員会の先生方をはじめ学内の皆様とご相談しながら、努力していきたいと存じますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

(やました たにじ 事務部長)

漱石漢詩注訳拾遺

金原 理

明治三十年（一八九七）十二月十二日に漱石は熊本県飽託郡大江村四〇一番地から、下谷区根岸町八十二番地に住む子規にあてた手紙で、病気を見舞ったついでに、「小生碌々矢張因例 如例に御座候。俳句頓とも
のにならず、囊底と共に払底に御座候。頃日五言律一首を得候間、御笑覧に供し候。御大政願上候」としたため、次の詩を書き送っている。

無 題

掉頭辞帝阙	かしら ふ でいけつ じ	頭を掉りて帝阙を辞し
倚劍出城闈	つぎ よ せいゐん い	劍に倚りて城闈を出づ
峯嶽肥山尽	そつりつ ひざん つ	峯嶽として肥山尽き
滂洋筑水新	はうやう あらた	滂洋として筑水新なり
秋風吹落日	しゅうふう らくじつ ふ	秋風 落日を吹き
大野絶行人	だいや かうじん た	大野 行人を絶つ
索寞乾坤蹶	さくぼく けんこんくろ	索寞として乾坤蹶く
蒼冥哀雁頻	さうめい しきり	蒼冥 哀雁頻なり

この詩は、松岡譲の『漱石の漢詩』（朝日新聞 昭和四一年九月）をはじめとして、吉川幸次郎の『漱石詩注』（岩波新書 昭和四二年五月）や、新しいところでは飯田利行の『漱石詩集譯』（国書刊行会 昭和五一年六月）、中村宏の『漱石漢詩の世界』（第一書房 昭和五八年十月）など、漱石の漢詩について触れたものにはたいい取り上げられている。

詩をこれらの注にしたがってたどると、

人のひきとめるのをふり切って東京を發って熊本へやって来ると、高くけわしい肥後の山なみが尽きて、眼前に広々とした筑後川が開けた。日暮れ時に秋風が吹いて、曠野には人っ子一人いない。あたりは気が滅入るように淋しく暗く、深い藍色をした大空に群をはなれた雁が、しきりに悲しげに鳴いている。となろうか。

ところで詩には、地形の上でいくつかの矛盾があることに気が付く。まず、漱石の熊本への下向が東京からであるにしろ松山からにしろ、西下することになるので、肥山（肥後の山々）と筑後川の位置が逆であることがあげられる。それから現実の肥後の山々はなだらかな丸みを帯びた連山であって、高くもけわしくも

ないし、筑後川と肥山との間には筑後平野が開けていて、肥後の山々が尽きてすぐ筑後川が目飛び込んで来るというようなロケーションではないことなど、地形の矛盾は三句目四句目（頷聯）に集中している。

前に掲げた諸注釈書はいずれもこの部分にてこずっているようで、たとえば中村宏は肥山を肥前、つまり佐賀の山とも考えているが、佐賀の山と筑後川との間にはやはり筑後平野が広がっていて、両者の距離は筑後川と肥山との間より遙かである。

漱石はこの時より半年ほど前に久留米の高良山に登っているが、その時の様子を明治三十年四月十八日付で子規にあてて、

今春期休に久留米に至り高良山に登り、夫より山越を致し發心と申す処の桜を見物致候。帰途久留米の古道具屋にて土朗と淡々の軸を手に入候につき、御慰の為め進呈致候。勿論双方とも真偽判然せず。

としたため、「菜の花の遙かに黄なり筑後川 山高し動ともすれば春曇る、拝殿に花吹き込むや鈴の音」などの句稿とともに送っている。

高良山は山腹に神社があるが、そこへ至るには急な坂と勾配のきつい石段を登らなければならない。たしかに近くを通る高速道路から眺める高良山は麓から急に聳え立つようで、漱石はこの急坂を登り神社に参詣して山越えをしたのである。そして山頂から足下をゆったりと流れる筑後川を目にしたのであった。

この山頂からの筑後川の眺望は漱石にとってかなり印象的なものであったらしく、この時から九年後に成った『草枕』の冒頭の素材ともなっている（古川久『漱石の書簡』）。

ここで件の漢詩の、いま話題としている頷聯の二句、「峯嶽として肥山尽き、滂洋として筑水新なり」（高くけわしい肥後の山なみが尽き、眼前に広々とした筑後川が開けた）に立戻ってみよう。あらためてこの二句を眺めてみると、漱石の高良山登山の印象がここにも語られていると思うのだが、いかがなものであろう。こう見れば、地形の矛盾も解決することになる。

漱石の熊本を詠んだ詩の注釈のこうした問題点を指摘することは、地元にいる者の務めでもあろう。

（きんばら ただし 文学部教授 比較文学）

特別企画：大学改革と図書館 (2)

学生のため図書館と研究室の連携強化を

森 光 昭

図書館では4月後半、連日、新入生を対象にしたガイダンスが行われました。学生部横に位置する図書館の催し物であり、私は館長を先頭にした大々的な宣伝に好奇心も刺激され、参観の機会を密かにうかがっていました。やっと連休の直前、新入生と肩を並べ、同じ目線で、わが熊大図書館を体験することになりました。

ガイダンスの第1部は、コンピュータを使った文献検索の練習が中心でした。新入生たちは初心者と思えないほどすばやく反応しました。若い人はすぐ覚えると思いつつも、私は指導のうまさに感嘆しました。「この4月、全学に導入したSOSEKI（学務情報システム）の操作も、このように手ほどきしてもらったら、さぞ学生も楽しく、しかもすぐに出来るようになるな」。こんなことを頭の中で反芻していた私は、コンピュータ操作で遅れをとってしまいました。いち早くこれに気づいた館員が、すばやく私のマウスに手をかけて、二三次クリック。このとき、私のコンピュータ操作の実力を観察するかのよう廊下に立っていた図書館長の口元に、微かな笑みが浮かんだようでした。

第2部は館内の施設と設備の説明。別の女性館員の担当でしたが、やはり説明は的を得て巧みで、爽やかでした。ガイダンスの最後、地下二階の移動書架の前での自動停止装置の実演も印象に残りました。

今回のガイダンスで、図書館は新入生にとって一気に身近な存在になったことでしょう。同時に、コンピュータを用いた文献検索の簡便さを知り、SOSEKI体験とあいまって、コンピュータの重要性を実感した人も少なくなかったと思います。

さて、今日の情報化の進展は、大学図書館の在り方にも大きな影響を与えています。情報の分野を大雑把に基礎部門と応用部門に分けると、応用部門は今後どんどん図書館に吸収され、図書館は「マルチメディアセンター」になっていくことでしょう。図書館は、これを視野に収めて将来計画を作り、個々の問題に対応していく必要があります。

現在、「電子図書館」が各大学で作られています。しかし、忘れてはならないことは、大学図書館の持つ機

能のひとつである「学習図書館」としての機能をいかに強化するか、という問題です。これは、次のようなことです。

情報化の猛烈な進展のおかげで、例えば学生がレポート作成中、OPAC（本学所蔵の図書・雑誌のオンライン検索システム）でキーワードを入れて検索すると、直ちに検索結果が表示されます。検索は図書館も研究室も区別しません。本の所在情報が直ちに出てきます。「本があった」の喜びは、しかし、現状では多くの場合、やがて失望に変わります。つまり、一般に図書館にある本は少なく、多くは各学部の研究室や講座、図書室に分散しているからです。本を見るためにはそこまで足を運ばなければなりません。しかし、私の経験では本にぶつかる確率は高くはありません。本が見あたらない場合、その所在情報は極めて不十分です。これは、必ずしも本の保管管理に問題があるというわけではありません。各研究室などの本は研究が中心であることに起因する現象です。

しかし、検索情報が十分に活用できないとなると、学生の不満は募ります。自ら学習し探究する意欲が削がれること、甚だしいと言わねばなりません。買い物に行った店で品物を次々に見せられたのに、いざ買う段になって、これらは売り物ではありませんと言われるようなものです。このようなことを極力回避するためには、図書館と学部の各研究室との連携が不可欠です。図書館の創意工夫が必要なことは言うまでもありませんが、情報化の今日、各研究室の伝統的な図書保管管理体制を大胆に改革する必要があります。

また、図書館の「学習図書館」としての機能を強化するための方策として、もう一つ緊急の課題を付け加えるとすれば、それは、現行の学生図書購入方式（図書選定を主に学部単位で行う方式）の再検討です。

以上の二つの課題の解決には、お金は要りません。必要なのは全学の英知の結集です。

(もり みつあき 学生部長)

永青文庫蔵雑記類より(四)

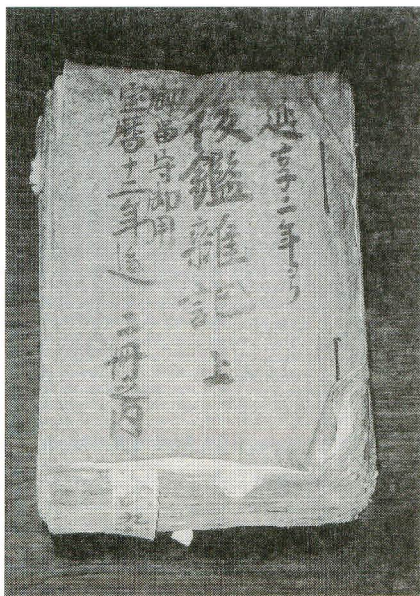
藩士失踪

西田耕三

延享3年(1746)5月4日、幕府に暇を願って国許の熊本へ帰る藩主細川宗孝の一行は、遠州浜松(本陣梅屋市左衛門)に宿泊した。5日、その日の宿泊地赤坂へ向けて出発した直後、若林という辺で、供立の小姓横目斎藤市右衛門が逐電した。斎藤の行方不明が公式のものになったのは、休憩した舞坂宿であつたらしい。すぐに、梅屋市左衛門と舞坂の本陣宮島伝左衛門に捜索の依頼がある。両者は街道沿いの村々へ手配する。しかし行方は知れなかった。

斎藤が白骨化した死骸で発見されたのは5月28日である。場所は、浜松より2里半の所にある大久保村陣尾から15,6丁入った山中であつた(服部大和守の領分)。大久保村の庄屋組頭惣百姓から服部大和守役人への報告(5月28日付け)は次のようになっている。

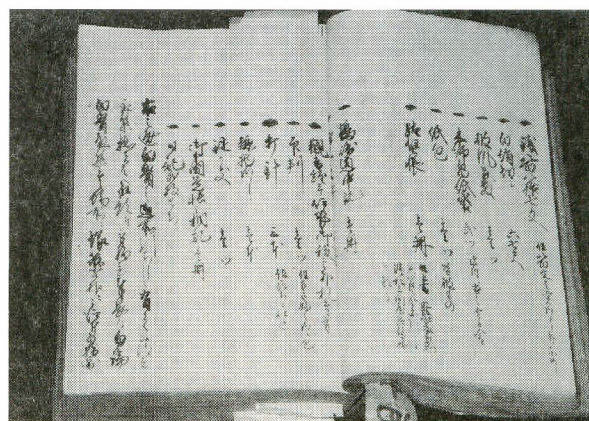
当村原山往来小道より凡二丁程も小松繁深引込、死人有之候を、山守共見付、拙者共江申達候間、早速御注進申上候而為御見分古橋幸左衛門殿平野萩右衛門殿御出被成、拙者共山廻り御案内仕御見分之所ニ、相果候比より日数過候様子にて死骸白骨ニ罷成、衣類等破候て訳不相知候得共、武家衆と御見江、雑物左之通ニ御座候。



(『後鑑雑記上』表紙)

- 一 大小 但両腰共下緒なし脇差ニ小刀有
- 一 金七両三分 内壱両三步小粒
- 一 銀子拾三 此目四拾匁(計量の結果である)
- 一 錢八百八拾七文 但八百文者貫さし外は小さし
- 一 白絹切レ 六七尺
- 一 破風呂敷 壱ツ
- 一 木綿鼻紙袋 弐ツ 此内ニ右之金子入有
- 一 純包 壱ツ 皆破もの
- 一 駄賃帳 壱冊 但上書肥後斎藤市右衛門 寅四月金奈川より浜松迄問屋駄賃払 印形有
- 一 鶴崎道中記 壱冊
- 一 継人足帳 壱冊
- 一 観音経并伊勢御祓其外札守有
- 一 印判 壱ツ 但古きふくさニ包
- 一 打針 三本 但つちに仕込
- 一 鯨物さし 壱本
- 一 錠かぎ 壱ツ
- 一 御下国覚帳と相記 壱冊
- 一 日記 弐枚とす

右之通白骨之近所引ちらし有之候得者、取集、拙者共へ御預ケ被指置奉畏候。勿論白骨取集其場所ニ塚築候様ニ被仰付御指図之通仕置候。右死人松木繁深之内故常ニ通路不仕候所にて、当月二十八日昼八ツ時過ニ山廻り共見付候は、別紙惣百姓口上書之通、右之訳存候者一人も無御座候。為後日一札差上申所



(『後鑑雑記』斎藤逐電の条)

仍而如件。

斎藤が失踪した理由はわからない。当時のことから乱心とみなされたのであろう。実際、死の状況からして計画的な逃走とは考えにくい。一瞬何かの思いがよぎって隊列を離れ、小松原をさまよったようにみえる。そう思うと、詳しく調査された斎藤の所持品は哀れをさそう。斎藤失踪の件は、熊本藩から道中奉行等公の役所へは届けられなかった。

以上の記録は『後鑑雑記』に載る。『後鑑雑記』には、引用した文書以外、以下の報告が記載されている。(1) 5月28日付け、大久保村惣百姓の口上書(引用した文書の末尾の記述にかかわることで、原山へ旅人が入りこんだのを見た者はいない、旅人が果てたあとそれを見届けた者はいない、という内容)、(2)6月2日付け、梅屋市左衛内から浜松の町役所への報告、(3)6月3日付け、梅屋から熊本藩大阪蔵屋敷への報告、(4)同日付け、舞坂本陣から大阪蔵屋敷役人への報告、(5)同日付け、舞坂本陣から熊本奉行への報告、(6)6月9日付け、大阪蔵屋敷萱野市平から熊本奉行への報告、(7)6月22日付け、奉行所から家老・用人への報告。

『後鑑雑記』とは、字義通り熊本藩の「後鑑」のための記録で、たとえば、明和2年、日光浄土院への助力の件に関し、奉行志水才助及び江戸留守居中川郡兵衛の書状等を「為後鑑左ニ記置」や、「明和五年五月朔日相良越前守様御家司中より来札之趣左之通為後年記置」といった態度・目的で記されたものである。延享2年(1745)から幕末まで何冊も書き継がれた。所管部署は未詳。あるいは書方所か。

斎藤の件を記した『後鑑雑記』は、延享2年から宝暦12年(1762)までの記事を取める(整理番号、14-9-15)。これは『後鑑雑記上』(14-9-17)を清書したもので、細川家ゆかりの子女の結婚・出産、細川重賢の曲舞の伝授、柳生家の代々、手紙の書き方、儉約を実行するために諸祝儀を簡略にする件、阿蘇大宮司の官位昇進の件、「外様万石以上」と「万石以上」の相違、公儀からの「日本之記録日記類」の調査依頼の件等々、まさに「後鑑雑記」の名にふさわしい記事に満ちている。

(にしだ こうぞう 文学部教授 国文学)

本学教官寄贈著書紹介

藤井 良彦 名誉教授

サマセット・モームの輪郭

藤井 良彦 著

英宝社 1999. 2

足立 啓二教授(文 世界システム史学)

専制国家史論 — 中国史から世界へ —

[叢書 歴史学と現在]

足立 啓二著

柏書房 1998. 4

ガボル メドベド教授(工 環境工学)

Gabor Medved

世界の橋物語

ガボル メドベド著

山海堂 1999. 2

硯川 眞旬教授(教 保健体育)

新 社会福祉方法原論

— 21世紀福祉メソッドの展開 —

硯川 眞旬編著

ミネルヴァ書房 1998. 4

高齢者の生活相談援助Q & A

硯川 眞旬編

中央法規出版 1997. 8

仏教野外教育論

— こどもの福祉をねがって —

硯川 眞旬著

八千代出版 1997. 4

改訂増補 現代社会福祉方法体系論の研究

硯川 眞旬著

八千代出版 1995. 1

入門 社会福祉方法論

硯川 眞旬著

八千代出版 1980. 4

他28点

学内学術出版物電子プロジェクトと試験公開のお知らせ

学内学術出版物の電子化の継続

附属図書館では、本誌No.20(1998.6)で紹介しましたように、平成8～9年度の文部省科学研究費補助金によって『文学部論叢』(第54号～57号)と『熊本法学』(第92号)の電子化を行ない試験的に公開しました。さらに平成10年度は、教育改善推進費(学長裁量経費)による「学内学術出版物の電子的保存と利用に関する基礎的研究」をテーマとするプロジェクトを総合情報処理センター等と共同で実施しました。

このプロジェクトでは、本学で発行する紀要類や学位論文等の学術出版物を、電子的に保存しネットワークを介して学内外に広く公開するために、効率的なデータ保存や高性能の検索システムの適用等の技術的可能性を検証し、加えて電子化に伴う様々な制度的・教育的問題点の整理検討を重ねて、将来の実用化の可能性を探りました。

電子化対象資料

今回は、学位論文と学内紀要を中心に以下の情報を電子化しました。

- ①戦前からの博士・修士(約1万人)の学位記授与名簿
- ②大学院自然科学研究科の博士論文(約200名)の内容の要旨及び審査結果の要旨

- ③工学博士・学術博士数名分の学位論文の全文
- ④『教育学部紀要』(1990年以降、18冊、373論文)
- ⑤『文学部論叢』(1990年以降、28冊、161論文)
- ⑥『熊本大学三十年史』(1980年、約1,300頁)

報告書及び試験公開

プロジェクトの結果は以下のURLで報告しています。

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/INFO/proj98.pdf>

また、検索システムのプロトタイプも以下のURLで試験公開を行なっていますが、現在のところ学位論文関係と三十年史関係のみです。紀要論文については、著作権処理が完了しだい試験公開していく予定です。

<http://rocca.lib.kumamoto-u.ac.jp/elib/>

平成11年度以降の進め方

プロジェクトでは、著作権処理等の制度的な問題の検討を含め、より全学的な関係者を交えた実証的研究へと進めながら、将来における全学的な電子化サービスの実現を目指していく計画です。

(電子情報係)

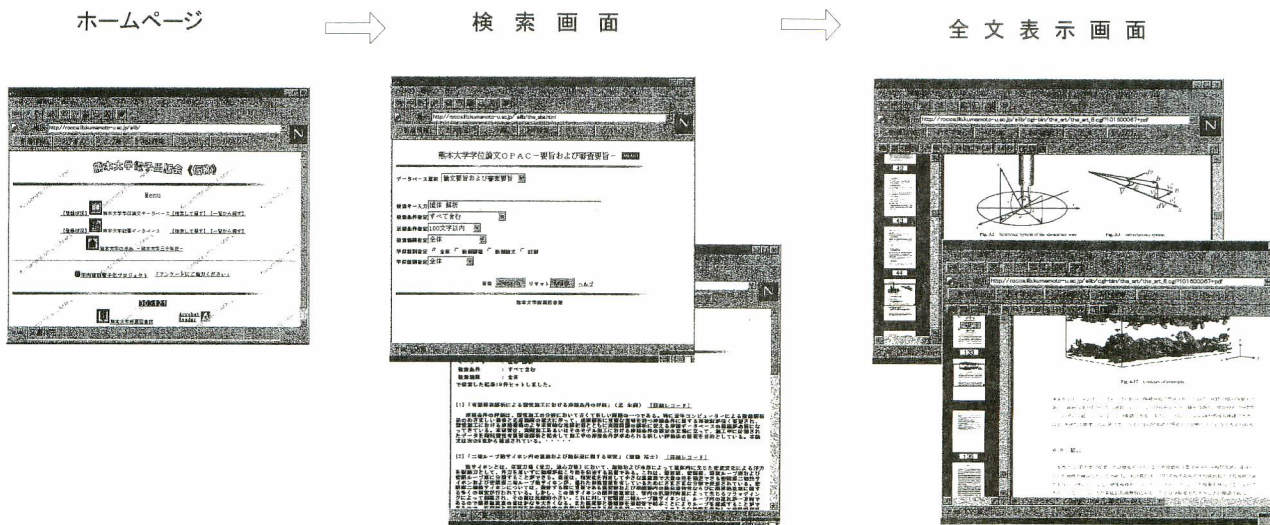


図 検索システムプロトタイプ

図書館の最近の動きから

一般市民への館外貸出を試行

中央館では、今年度から一般市民への館外貸出を始めました。大学を開放し、生涯学習機関としての役割を少しでも果たしたいと思っています。詳しくは、情報サービス課資料サービス係（電話：096-342-2226、e-mail:shiryou@lib.kumamoto-u.ac.jp）まで。

新入生対象図書館ガイダンスを実施

中央館では、4月12日～30日の3週間、新入生を対象とした図書館利用に関する総合的ガイダンスを実施しました。初めての試みでしたが受講者数は900名にもものぼり、約50%の新入生の参加がありました。現在中央館では、このガイダンスに続く対象者別や提供サービス別の各種ガイダンスを計画中です。決まり次第、附属図書館ホームページ (<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>) でお知らせ致します。

DNAサービスを開始

DNA（デジタル ニュース アーカイブ）は、朝日新聞社が提供する全文記事検索サービスです。1985年から今朝の朝刊までの記事を検索し、プリントアウトする事ができます。4月から中央館の専用パソコンでの正式サービスを開始しました。どうぞご利用ください。

衛生放送受信 試行中

中央館1階ロビー内に、34インチ大型テレビを設置しました。現在、NHK衛星第1（BS-7）と第2（BS-11）をご覧いただけます。今後、チャンネル数を増やしていく予定ですので、附属図書館ホームページ及び本誌で随時お知らせ致します。

オンラインジャーナルのタイトル数が増えました

利用できるオンラインジャーナルが、110タイトルになりました（1999年4月30日現在）。学内のパソコンからであれば、無料でフルテキストデータを入手することができます。ご利用は、附属図書館のホームページ内の「電子ジャーナル」からどうぞ。

CD-ROMソフトとビデオソフトを充実

中央館では、下記のCD-ROM 8点を新しく受入れま

した。

- ・ホーキング、宇宙を語る
- ・ソフィーの世界
- ・ルーヴル美術館～フランス絵画の巨匠たち～
- ・NHKやってみようなんでも実験
- ・巨匠フェデリコ・フェリーニの世界
- ・手にことばを～入門編～
- ・平安遺文
- ・音でわかる楽典

中央館が所蔵するCD-ROMソフトは全部で75タイトルになりました。ご利用の際は、カウンターにてお気軽にお申し込み下さい。

さらに中央館では、勉強の合間の息抜きとして、映画ビデオを84本受入れました。邦画作品を中心に名作を取り揃えましたので、ぜひご利用ください。

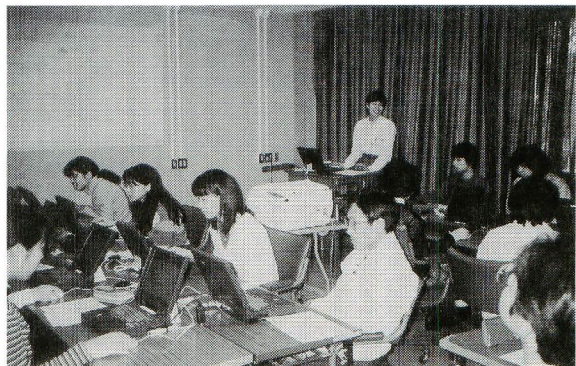
シラバス掲載図書を多数購入しました！

附属図書館では、カリキュラムに沿った参考文献の整備充実を目的に、平成11年度シラバスに参考書として記載されている図書約600タイトルを購入しました。

授業内容に促した図書ですので十分に活用して下さい。

医療短期大学部図書室の受入目録業務を中央館へ！

事務の一元化に対応して、4月から医療短期大学部図書室の受入目録業務を各分館同様に中央館で行うようになりました。中央館への業務集中化によるサービス面の拡充にご期待ください。



(図書館ガイダンス風景)

平成11年度附属図書館事業計画

1. 利用者サービスの拡充
 - ・シラバスに記載された参考図書等を備え付け、カリキュラムに沿った参考文献の整備充実を図る。
 - ・新入生を対象とした図書館ガイダンスを実施する。また、2年生以上の学生に対するガイダンスの実施を検討する。
 - ・授業やゼミと連携した図書館オリエンテーションの実施など、情報リテラシー教育を支援する。
 - ・新任教官の方々を対象とした図書館ガイダンスを実施する。
 - ・開館時間の見直しを行う。
 - ・留学生向けの図書館サービス向上の一環として、衛生放送によるニュース番組の提供を行う（中央館）。
 - ・利用申請書類等の押印を廃止し、利用手続きの簡素化を図る。
 - ・利用者にわかりやすい館内サインを検討する。その際、身障者や留学生の利用について十分考慮する。
 - ・図書館建築構想を具体化する（医学部分館）。
2. 電子図書館的機能の充実
 - ・目録情報の遡及入力計画を促進し、早期の計画完了をめざす。
 - ・電子的資料（オンラインジャーナル等）の導入を促進する。
 - ・学内研究成果（学位論文、紀要）のデータベース化を促進し、公開するために必要な著作権処理等の条件整備を行う。
 - ・総合情報処理センター、経理部情報処理課等、学内情報関連組織・施設等との連携強化を推進する。また、学務情報システムを支援するために学生部との連絡調整を行う。
 - ・阿蘇家文書、八雲文庫等の本学所蔵コレクションの電子化を進める。
 - ・利用者用パソコンの整備充実を図る。
 - ・Webを利用した各種サービスを充実させる。
3. 施設・設備及び保存機能等の整備充実
 - ・増改築計画を早期実現させるために関係部署との協議を進める（中央館）。
 - ・トイレ、照明、閲覧机、椅子等を改修整備し、閲覧環境の改善を行う。
4. 業務の効率化
 - ・医療短期大学部図書室の受入目録業務を各分館と同様に中央館へ集中化し、業務の標準化と効率化を図るとともに、同図書室のサービス面を拡充する。
 - ・ILL業務（他大学、分館との相互利用）の増加に対応した資料のデリバリー方法を改善する。
 - ・閲覧カウンターのサービス体制を改善する（中央館）。
 - ・業務の均一化を図るため業務マニュアルを整備する。
5. 地域に根ざした活動の展開
 - ・一般市民等への利用サービスを拡大し、中央館において館外貸出を試行する。
 - ・大学祭の日程に合わせて特殊資料展を開催する（中央館）。
6. 組織及び管理運営の改善等
 - ・情報サービス課図書館専門員の併任を解除する。
 - ・情報管理課への図書館専門員配置の実現に向けて取り組む。
 - ・事務改善に対応した規程等の整備を行う。
7. その他
 - ・阿蘇家文書の修復計画を継続する。
 - ・選書方針を確立し資料収集に関する運用体制を整備した上で、系統的な蔵書構築に努める。
 - ・図書館協議会等（全国、九州地区、熊本県内）の諸活動に積極的に取り組み大学図書館における共通課題の解決を図る。

平成11年度図書館運営委員会

学 部 名	職 名	氏 名
工 学 部	館 長	平 山 忠 一
文 学 部	助 教 授	大 野 龍 浩
教 育 学 部	教 授	中 本 環
法 学 部	教 授	鈴 木 桂 樹
理 学 部	助 教 授	圓 藤 章
医 学 部 分 館 長	教 授	小 川 尚
附 属 病 院	助 教 授	岡 嶋 研 二
薬 学 部 分 館 長	教 授	原 野 一 誠
工 学 部	教 授	松 尾 日 出 男
大学教育研究センター	教 授	刀 根 辰 夫
医療技術短期大学部	教 授	蔦 川 忠 久

(平成11年5月末日現在)

人事異動

新	氏名	旧
平成11.4.1	情報管理課 雑誌情報係長	安陪 光恭(医学情報サービス係長)
〃	雑誌情報係	川内野祐子(図書情報係)
〃	図書情報係	岡崎 絹子(薬学情報サービス係)
〃	図書情報係	園田 雅子(総務係)
〃	情報サービス課 相互利用サービス係長	福島 勲(雑誌情報係長)
〃	医学情報サービス係長	秋吉陽一郎(放送大学)
〃	薬学情報サービス係長	永村 典子(八代工業高等専門学校)
〃	薬学情報サービス係	原田 繁子(図書情報係)
〃	事務局研究協力課	野元 剛二(雑誌情報係)
平成11.3.31	退職	山田 芳郎(相互利用サービス係長)

日誌 (平成11.1~4.30)

- 1.5 大学図書館における学術情報発信に関するセミナー(軽井沢)
- 1.8 附属図書館係長会議
- 1.18 ILLシステム地域講習会担当者連絡会議
~20 (学術情報センター)
- 1.21 国立大学附属図書館事務部長会議(三重大学)
- 1.21 熊本県大学図書館協議会平成10年度講演会及び
セミナー(九州東海大学)
- 1.25 国立大学図書館協議会 コンソーシアムワー
キング・グループ会議(九州大学)
- 〃 九州地区国立大学図書館協議会電子的情報資料
の共同導入検討ワーキング・グループ会議
(九州大学)
- 〃 High Wireセミナー(九州大学)
- 2.9 古典籍研修会
- 2.17 附属図書館係長会議
- 2.26 熊本県図書館関係職員研修会(県立図書館)
- 3.2 古典籍研修会
- 3.10 附属図書館係長会議
- 3.11 国立大学図書館協議会レファレンス・ケースDB
構築検討ワーキング・グループ会議(九州大学)
- 3.16 古典籍研修会
- 3.23 附属図書館運営委員会
- 4.12 新入生を対象とした図書館ガイダンス
~30(中央館)
- 4.19 大学院生ガイダンス(医学部分館)
- 4.22 第29回九州地区国立大学図書館協議会(佐賀)
〃 留学生ガイダンス(くすの木会館)
- 4.23 第50回九州地区大学図書館協議会総会(佐賀)
- 4.27 熊本県大学図書館協議会総会(九州東海大学)

編集後記: 「パソコンの操作って思ったよりも簡単」「地下書庫の動く書架に感動した」「とても説明が丁寧で、これから図書館を利用しようと思った」—これらは4月に行った新入生対象図書館ガイダンスのアンケートに寄せられた感想の一部です。このガイダンスには、学生部長の森教授も飛び入り参加され、本号の“特別企画:大学改革と図書館(2)”にその様子を紹介いただいています。

せっかくこのガイダンスで好印象を持った新入生の期待を裏切らないよう、サービスの改善に向けて様々な工夫が必要なのは言うまでもありません。図書館外からのアイデア、ヒントなどもお待ちしております。

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*

第23号(Vol. 8 No. 2)平成11年6月発行

発行所 熊本大学附属図書館〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

TEL 096(342)2273 FAX 096(345)9087

HP <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp>

編 集 濱崎修一・成田和則・中尾康朗・伊波ひとみ

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。